

# 数学教育軌跡(1)

1900年前後のフランスについて

1898年、フランスの学会が中等教育改革の  
委員会をつくた~~とき~~に、レーザの「数学(教  
育と哲学)」が~~出版~~<sup>出版</sup>された。レーザは1841年生  
まれ、エコーン。パリテクニク出身で、母  
校の理数教師~~であった~~。彼は~~同窓の友人~~  
~~ルネ・アヌヤ・ロカールと同時期に~~初等数  
学の有名な研究者~~で~~、~~著書~~<sup>著書</sup>「大きな6巻の難しい  
「数学問題集」(1893~96)」の著者であった。  
ところで~~著書「数学」~~上の著は~~ん~~おいては、  
~~彼は~~「普通の教育されたすべての人々から数学  
のよい人々」







は廣い

アンリ・ポアンスカレ ~~は廣い~~ 意味で数学教  
 育に大きな影響をよせた人であるか、直接  
 数学教育に関係ある論文といえるものは、  
<sup>刊の</sup>~~1899~~ 年の「~~ポアンスカレ~~・マテマティク」  
 に寄せた、「~~微分記号と教育~~」と「~~お尋ねの~~  
~~お尋ねの論文と直観~~」とある。二つの小論文  
 の外には、次の二つの講壇にけである。――  
 「お尋ねの直観と論理の役割」(1900  
 年の講壇で、「科学の価値」(1905)のなか  
 一章)。~~とある。~~



「おとゝ おけり一般の定年」 (1904年報  
 育増刊物の増補「我々の生活」(1908) ~~おとゝ~~  
 に見えり).

それで1902年7月23日おとゝが  
 における大立~~おとゝ~~としては、おアコカシよりも、  
 はるか<sup>に</sup>定~~年~~的~~な~~ ~~コミュニ~~・タニリー一を  
 得るべきとおもひ。タニリー一は自ら書い  
 たといふもの、<sup>に</sup>「解析する基礎的研究から、  
 やかたおとゝの教育と普及とに努力を転換した  
 か、自分の境遇はふしぎなほど自分の趣味に



通していった」人であった。しかもカントの  
 集合論をはじめとする数学界に理解さ  
 せられたのは、ボール、ゲーデル、ルベーグ  
 の新時代を生んだエコーン・ノルマンの著  
 者であったのが、一方向、クライの「エウ  
 アリスト・コロン・ユークリッド、なる講義」(18  
 94)に於いて、あの有名な大膽・鋭利でい  
 皮肉・深刻な批判(ブルバキ・デ・シャ  
 ニス・マテマティック 第2巻 ~~講義~~ 載)を、タ  
 ニヌリー以外の誰かか、かえりこめか、出された



あろろか。タニニリーニニは君字評議家として

て、まさに世界第一級の君字者であった。

私たちは今日君字教育の側から、タニニ

すは"スレ

リーの評議家集「初巻と指針」を読みかえ

る必要があるだろう。